

皆様の情報誌です。ぜひ、ご家庭にお持ち帰りください。 <http://www.hosp.u-ryukyu.ac.jp/>



琉球大学医学部附属病院長・
第二外科長

國吉 幸男

診療科の紹介 1

第二外科開講 30 年間の歴史

地上戦があった沖縄県は終戦直後の医師数が約60名であり、その医療環境は惨憺たるものであったと沖縄県医師会史に綴られています。そのため、復帰前は多くの患者さんが治療のため本土へ苦勞して渡ったと伝え聞いています。1965年8月、当時の佐藤栄作首相は沖縄を訪問し、琉球大学に医学部設置を明言します。1979年、沖縄県民の悲願、また最後の国立大学医学部として琉球大学医学部が発足いたしました。その4年後、1983年4月1日、我が第二外科は開講いたしました。昨年4月1日で丁度30周年になりました。初代草場昭教授が赴任され、爾來2代目古謝景春教授、3代目現教授國吉幸男と続き30年が経過いたしました。当科は、一貫して、循環器外科すなわち心臓外科、血管外科、それに呼吸器外科を加えた領域を専門として外科治療を行ってまいりました。初代草場教授は本邦の血管外科の草分け的存在であり、既に多くの末梢血管の外科治療に関する研究業績を積んでおりました。末梢血管手術後の再閉塞を予測するタイプ分類は今日でも標準的であり、確実な血行再建を目指してその分野の発展に大きく寄与されました。2代目古謝教授は、主として心臓、大血管の治療に情熱を注がれました。特に、沖縄県で多発するバッドキアリ症候群に関する外科治療法の確立は、米国の教科書にも標準的外科治療として記載されています。また、現在でも難治である、胸腹部大動脈瘤に対する挑戦は、パイオニアの一人として常に文献引用されています。現教授は、前任2人の薫陶を受けて心臓血管外科学を中心として診療、研究を行っています。「心臓血管外科領域において、本土に行く必要のない高度専門医療の推進」を我が教室として、教室員共々日々の診療を行っています。5年前から行っている大動脈瘤に対するステントグラフト治療は、極めて手術侵襲が小さく、高齢者や他多くの併存疾患を有する患者さんにとって、大きな福音となっています。この治療が、経カテーテル的大動脈弁置換術へと進化しています。また、今年度から導入施行している、心臓移植までの待機として行っている植え込み型補助人工心臓治療は、本学を含めて全国27施設での認定医療であり、沖縄県における心臓移植を要する重症心不全治療の大きな一歩となっていると考えます。



初代 草場 昭 教授



第2代 古謝景春 教授

当科の強みは、上記30年間の長きにわたり継続して心臓血管外科の臨床・研究に取り組み、その臨床的経験が代々に渡って継承・蓄積されてきたことであると考えます。バッドキアリ症候群に対する外科治療も同様に継続・継承して行われており、当該患者が本土各地から治療を受けに訪れており、隔世の感を禁じ得ません。30年前、8名でスタートした当科は、現在までに100名に達する医師が入局し、県下の医療機関で活躍しています。初代教授から受け継がれた「目の前の患者の治療を最優先に」という現場主義を今後も貫き、沖縄県の地域医療に少しでも貢献していきたいと考えています。



心、腎、脳を診る内科です

山里 正演

第三内科 医局長

第三内科は「循環器」、「腎臓・高血圧」、「神経・脳卒中」の3つのグループで診療を行っています。専門とする臓器は心、腎、脳です。狭心症、心筋梗塞、不整脈、糸球体腎炎、ネフローゼ、腎不全、神経変性疾患、脳卒中などが代表的疾患です。3つのグループで診る疾患には共通した特徴があります。それは高血圧に代表される生活習慣病、その生活習慣病によって起こってくる血管の病気、動脈硬化を背景としている疾患が多いことです。そのため心、腎、脳の疾患が同時に合併し、問題になることも多々経験します。専門とする臓器は異なりますが、血管の病気を中心に診るという点で第三内科の3つのグループはつながっており、グループ間で連携して治療を行えるというメリットがあります。

さらに、特殊な治療も行っています。重症虚血肢（慢性閉塞性動脈硬化症またはバージャー病）に対し、末梢血幹細胞による血管再生治療を当院第二外科と協力して行っています。この治療法は先進医療として承認を受けています。また、慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対するカテーテル治療、血液浄化療法部と協力して行っている在宅で行う腹膜透析療法、片側顔面痙攣や脳卒中後の痙縮に対するボツリヌス治療も始めています。さらに2013年7月に准教授として岩淵成志先生が赴任されました。日本でもトップクラスの心臓カテーテル治療経験と高度な技術を持たれた先生です。これまで本土でしか受けられなかった高度な心臓カテーテル治療が県内でも開始できるよう準備を進めています。

以上より、第三内科は血管を健全に保ち、心、腎、脳を守ることを目指し診療を行っています。これらの疾患でお困りの際には是非ご相談ください。

新任教員紹介

第三内科



岩淵 成志

第三内科 准教授

2013年7月に赴任いたしました。専門は心臓カテーテル治療で、勤務した福山循環器病院、小倉記念病院で8,000例ほどの症例を経験しました。33才で第一術者になれたこと、18年在籍した小倉記念病院で2008年から主任部長として勤務していたことが多くの治療症例数につながったと思います。大屋教授より小倉記念病院へ医師を派遣していただいていたので、琉大の心カテチーム医師のうち4人は小倉記念病院経験者です。また、彼ら以外の医師、検査技師、ME、看護師などきわめて優秀でチーム医療に前向きに取り組んでおり、臨床医療レベルの高さを感じました。

最近の心臓カテーテル治療の進歩はめざましく、冠動脈、下肢動脈などの血管治療のみならず、大動脈弁、僧帽弁、心房中隔欠損などへのカテーテル治療が数多く臨床応用されています。特に2013年10月1日より保険償還された経カテーテル大動脈弁置換術は最近のトピックスです。小倉記念病院で臨床治験を経験しましたが、大動脈弁置換術の手術不能症例やハイリスク症例により低侵襲での治療が可能になるため期待されています。現時点で県内にこの治療の施設基準を満たす施設はありませんが、本院では今年春頃には申請できるのではないかと考えています。循環器疾患治療は今まで以上にチーム医療が重要です。今後は、第二外科國吉教授の主導されているハートチームに参加させていただき微力ながら全力を尽くす所存です。



清潔・安全な医療材料の提供による患者さんの感染予防

知名 智子

材料部 看護師長

材料部は、各外来・病棟で行う検査や治療に使用する器具の洗浄やセット組、滅菌と医療材料の管理と供給を行っています。

材料部職員は、直接患者さんにお会いすることはないのですが、患者さんに使われる安全で安心な医療器材を提供するために日々取り組んでおります。2004年からは、各外来・病棟・各部署での診療用器材の洗浄を材料部で一括洗浄することとし、各現場の業務の効率化と感染防止対策に貢献しています。

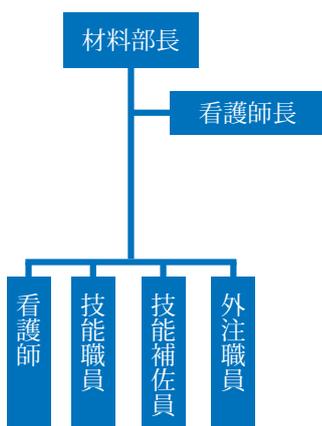
昨年度からは、開院以来、手術部で洗浄していた手術器材を、材料部でRO水（純水）を使用し、洗浄しています。RO水とは、水道水を逆浸透膜に通し、不純物、重金属をはじめ細菌やウィルスまでを取り除いた純水のことです。

また、材料部では、洗浄・消毒・滅菌を行うために特徴的な医療機器を使用しています。

消毒・滅菌前の洗浄だけでも、器材の表面に付着した菌を99.9%以上消失できると報告されています。洗浄機は、単層式ウォッシャーディスインフェクター3台、多層式ウォッシャーディスインフェクター1台、カート洗浄機、呼吸器回路除染装置、超音波洗浄機、卓上式マイクロ用洗浄機の8台です。洗浄目的により洗浄機を選択し洗浄、定期的に洗浄評価を行っています。

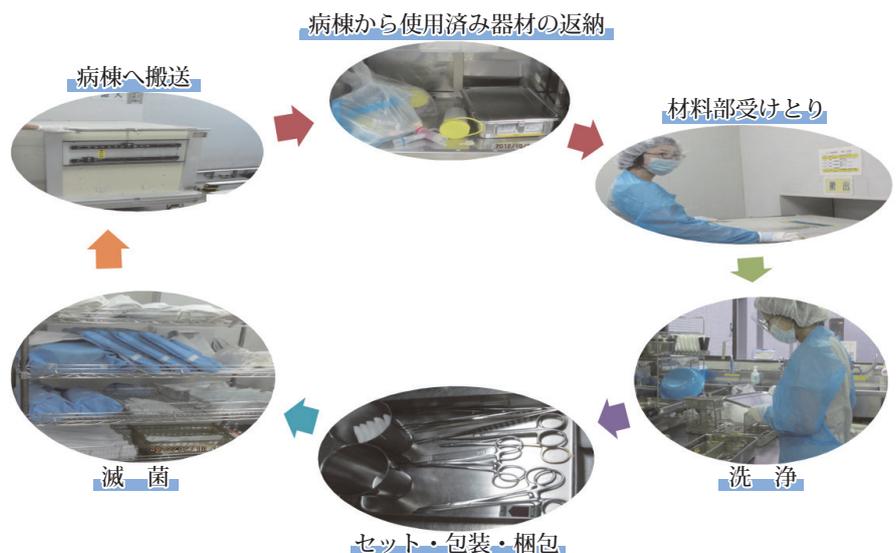
滅菌は、高圧蒸気滅菌・EOG滅菌・プラズマ滅菌の3種類で滅菌を行っています。滅菌技師の資格を取得した職員の指導の下、滅菌保証のガイドラインに従い、定期的な機器の保守点検とインジケータを使用した滅菌評価を行っています。

材料部の職員構成



医療器材の搬送

各病棟と材料部間の搬送は、大型搬送ワゴンで行っています。



滅菌物と汚染物の交差を避けるため一方の経路をたどるワンウェイ方式をとり、汚染物は洗浄側から搬出され、滅菌物は滅菌室から病棟に搬入されます（上図参照）。

このように、材料部では、清潔・安全な医療材料の提供により患者さんの感染予防に努めています。



ハイブリッド手術室の活用により、 沖縄県の医療に貢献します

金谷 文則

手術部長・整形外科長

ハイブリッド (hybrid) とは、1つの目的を達成するために2つ (またはそれ以上) の異質のものを組み合わせることであり、最近ではトヨタのプリウスなどの動力源として、ガソリンエンジンとモーターを持つハイブリッドカーで耳に馴染んでいると思います。

ハイブリッド手術室 (以下、ハイブリッドOR) は、据え置き型血管 (angio) 造影装置を設置した手術室であり、当院では9月30日に沖縄県初のハイブリッドORのプレート上掲式が行われ、10月2日から運用が開始されました (写真1)。すなわち手術室で連続血管造影が可能になり、さらに画像の三次元構成も可能になりました。このハイブリッドORはステント留置や血管内治療 (経カテーテル大動脈弁置換) などに最も威力を発揮します。大きなメリットは、血管内治療中でも直ぐに開胸・開腹・開頭手術へ移行できることであり、緊急事態にも対処できます。脳外科の動静脈奇形 (AVM) の治療にも威力を発揮します。主な仕様はアーム支持装置: Artis Q TA、デジタル画像処理装置 3D画像再構成用ワークステーション (シーメンス社)、手術用テーブル: MAGNAS (マッケ社) であり、血管造影装置と手術用テーブルとのインテグレーションにより、放射線部の血管造影装置と同程度の操作性とともに非接触性安全機構により安全性を確保しています (写真2)。このシステムにより、スタッフや装置・器具を一箇所に集約できるため、コンパクトなスペースで効率的な運営が可能になりました。

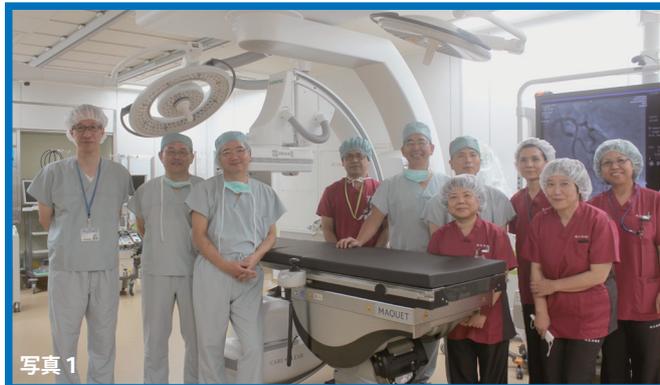


写真1



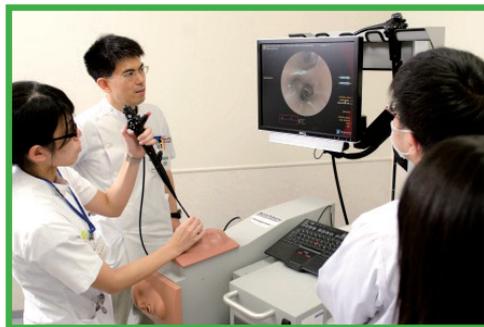
写真2

さらに、術中に3D画像 (コーンビームCT) が撮影可能であり、得られた3D画像を用いたナビゲーションを用いて低侵襲手術に応用することも可能です。今まで胸腔鏡下手術 (VATS) を行う際に、術前CT下マーキングが必要であった肺腫瘍もDyna CTを用いた透視下ガイド (iGuide) により術中マーキングが可能になり、低侵襲かつ合併症を減らすことができます。必要な際には直ちに開胸手術に移行できることも大きなメリットです。バイオプシーやドレナージも術中CTにより確実に行うことが可能ですし、術前のCT、MRI画像によるシミュレーションを術中のCT画像に重ねることにより補正でき、より正確な手術が可能になります。整形外科 (椎弓根スクリュー、椎体形成術) や顎顔面手術にも有用です。

ハイブリッドORのメリットは上記の通りですが、汎用手術テーブルを導入したことにより、一般の手術に用いることができます。9室稼働していた手術室は、今回のハイブリッドORの導入により10室となりました。現在の外科系の手術待ちは2-3ヵ月に及んでいますので、手術室増により待機期間短縮が期待できます。

ハイブリッドORの設置により、高度な先進的手技を低侵襲でより安全に行うことが可能になりました。一方、その運営にはORスタッフはもちろん、診療放射線技師、臨床工学技士の協力が不可欠です。このハイブリッドORの活用により沖縄県の医療に大きく貢献できると考えています。

2012年3月25日、本院の敷地内に、県内の医師をはじめとする全ての医療従事者が利用できる教育施設「おきなわクリニカルシミュレーションセンター（以下センター）」が開設しました。



「クリニカルシミュレーション」とは、医療の様々な現場（クリニカル）を模倣した環境を作り（シミュレーション）、そこで体験から学ぶものです。模擬環境の中での訓練は、学習者の理解を深め、主体的で能動的な学びの姿勢を引き出すのみではなく、個人の技術の向上やチーム連携を強化するため、安全な医療につながります。

センターは、3つの学習コンセプトゾーンを有しています。1つ目は基本的な医療技術を学ぶゾーン。ここでは診察法や採血などの基本的な手技を学びます。2つ目は救命・救急医療を学ぶゾーン。ここには人間の生体反応を再現できる高機能シミュレータを配備しており、単職種のみならず、多職種で連携したトレーニングも可能です。3つ目は専門的な手技を学ぶゾーン。コンピュータ上のバーチャルリアリティー（仮想現実）画像を用いて様々な専門的な手技のトレーニングができます。まさに、最新鋭の設備です。

この設備を用い、医療系学生は、実習前の技術トレーニングや医療面接の練習等を実施しています。研修医は、定期的に手技のトレーニングや症例を設定し、診断から治療までをシミュレーションを通して学ぶトレーニングを行っています。また、上級医や専門医は、腹腔鏡手術・血管カテーテル・内視鏡などのシミュレータを利用した専門的な技術トレーニングを行っています。さらに看護師は、病棟や外来での患者対応や急変対応など新人からベテランまでを対象としたトレーニングを行っています。その他薬剤師や検査技師、救命救急士といった多くの職種が、センターを利用しています。我々センターのスタッフ一同は、この新しいシミュレーション教育の波が沖縄県全体に広がり、沖縄が日本におけるシミュレーション教育のモデルとなれるよう、本院の方々をはじめ、県内の医療者の皆様のご支援を賜りながら進んでいきたいと思っています。

詳しい利用のご案内、センターの近況、そして施設見学のご案内などをホームページで紹介しています。ぜひ、ご覧ください。（<http://okinawa-clinical-sim.org/>）



Kid's Sim!!



が開催されました！！

2013年8月1日、15日に、センターでKid's Simが開催されました。この取組は、夏休み期間中に、小学校5・6年生を対象として、学校の授業を補完する目的で行われている体験型の学習です。

参加者約30名は、「食べる」、「どきどきする」、「うまれる」、「いきをする」をテーマにした4つのブースで体について学びました。各ブースでは、医師や助産師により、学習指導要領にそった学習内容が提供され、参加者が生き生きと学習に取り組んでいる様子が印象的でした。



久木田一朗 救急部長

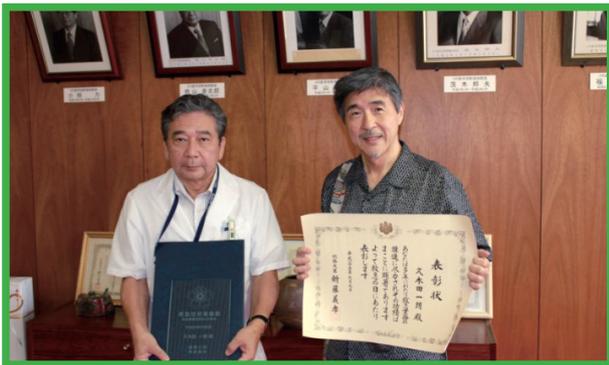
表彰

平成 25 年度救急功労者 表彰（総務大臣表彰）を受賞

2013年9月9日（月）「救急の日」に、医学部附属病院 久木田一朗 救急部長が、平成 25 年度救急功労者総務大臣表彰を受賞しました。救急功労者表彰は、救急業務の推進に貢献し、公共の福祉の増進に顕著な功績があった個人及び団体を対象として、都道府県知事の推薦のもと、総務大臣及び消防庁長官がその功績をたたえ表彰するものです。

久木田救急部長は、長年にわたる沖縄県消防学校での救急隊員への教育指導及び沖縄県メディカルコントロール協議会会長としての救急業務高度化への尽力が高く評価され、受賞を認められました。

受賞決定について、久木田救急部長は「救急隊、救急救命士への教育および病院実習には学内から多くの方々に貢献いただいております。代表して頂いたものと思っております。救急業務法制化から 50 年、救急業務の拡大が進む中、病院前救護の質の向上に今後も尽力したいと思っております。」と述べていました。



村山貞之前病院院長へ受賞を報告する久木田救急部長



表彰式で、新藤義孝総務大臣から表彰状を授けられる久木田救急部長

イベント

エコクリーンデー in 上原キャンパス

医学部保健学科成人看護学 I 分野 准教授 大湾知子

上原キャンパスの附属病院と医学部では、毎年、敷地内建物周囲の環境美化を盛り上げていこうと、利用者の意識向上および廃棄物削減を図っています。“綺麗なキャンパスが好きです！”と題し、未来の琉球大学学生を迎えよう、という趣旨からオープンキャンパスを前に、経営管理課が中心になり「エコクリーンデー in 上原キャンパス」を掲げ、2013年7月17日午後3時～5時、学生と教職員が楽しく一斉清掃を行いました。

石田肇医学科長が挨拶をし、作業の説明を行った後、看護部、事務部、保健学科の学生と教職員、サークルの学生など約 200 名が参加して作業を開始しました。

一般財団法人徳明会よりご寄付いただいた飲み物で水分を補給しながら、日射病対策を万全に行い、真夏の温風に吹かれて手袋を装着し、竹ぼうきやチリトリで花壇の除草、車輛周辺や排水溝内の枯葉と草木を収集しました。そのゴミ袋の数は、なんと 136 袋でした。お陰様で本院やキャンパス内のゴミは半分減り、気持ち良く、本院に来院される方、キャンパスの利用者や訪問者をお迎えすることが出来ました。

全国各地からの高校生を迎えるオープンキャンパスでのおもてなし！最強の Powerspot とも言える上原キャンパスは改めて関心が寄せられています。このエコ活動に毎年飲み物をご寄付くださる徳明会、シフト制の厳しい勤務時間に参加いただきました看護部の皆様、実習・授業の合間に参加いただきました保健学科の皆様、事務部の職員、その他ご協力いただきました皆様に心から感謝申し上げます。そして、来年は、エコクリーンデーには興味があるけど、清掃時間が取れなくて…という皆様、もちろんそれ以外の方にも、エコクリーンデーの活動をより深く知っていただきたいと思います。

学生と教職員の情熱で上原キャンパスを綺麗に！明るく！元気に！！是非、多くの皆様お誘いあわせの上、ご参加をお待ちいたしております。



外来診療日割表

※曜日枠に赤まる●が付いた曜日が外来診療日となります。外来の際にご確認ください。

※診療受付時間は午前8時30分から午前11時まで、診療開始時間は午前9時です。 平成26年1月1日現在

診療科	専門外来	月	火	水	木	金	備考
第一内科	感染症内科	●	●		●	●	新患は要紹介状
	呼吸器内科	●	●		●	●	肺腫瘍 びまん性肺疾患
	消化器内科	●	●		●	●	糞線虫外来：木曜日 月曜日午後：B型肝炎訴訟診療（要予約）
第二内科	血液内科（骨髄移植外来）		●	●		●	第二内科：新患は要紹介状
	成人T細胞白血球リンパ腫外来		●				
	肥満症（生活習慣病）		●	●		●	
	糖尿病・内分泌・代謝内科	●	●	●		●	※糖尿病・内分泌・代謝内科（月曜日は入院患者の紹介のみ）
	膠原病・リウマチ内科		●	●			※膠原病・リウマチ内科は専門医の確保が出来るまで休診（再来のみ可）
	骨粗鬆症・男性更年期（LOH）		●	●			
	女性医師による女性外来	●	●			●	※女性医師による女性外来は要予約（院外からの紹介は、医療福祉支援センター・内線1371で予約）
第三内科	神経内科	●		●	●		第三内科：新患は要紹介状
	高血圧・腎臓内科	●		●	●	●	※神経内科の新患外来は、紹介病院からの予約のみ。再来は要予約
	高齢内科			●	●		
循環器科	循環器内科	●		●	●	●	循環器内科：新患は要紹介状
第一外科	上部消化管外科	●		●			肛門疾患：新患は要紹介状 要予約（院外からの紹介は、医療福祉支援センター・内線1371で予約）
	下部消化管外科	●		●	●		
	肝胆膵外科	●		●	●		
	乳腺・甲状腺外科	●		●	●		
第二外科	小児外科	●		●			小児外科は午後のみ
心臓血管外科	呼吸器外科		●		●		
	心臓血管外科		●			●	木曜日：心臓血管外科は休診
	ステント外来		●			●	血管外科：新患は要紹介状、院外は要予約（医療福祉支援センター内線・1371で予約）
	血管外科		●		●	●	木曜日：院内紹介のみ（主にDVT、静脈瘤）
脳神経外科	脳神経外科	●		●		●	新患は要紹介状
整形外科	運動器（上肢・下肢、脊椎・脊髄）	●		●		●	骨・軟部腫瘍：新患は水曜日のみ
	骨・軟部腫瘍			●		●	
	スポーツ医学	●		●		●	
	リウマチ	●		●		●	
	骨粗鬆症			●		●	
	小児整形			●		●	
産科婦人科	新患	●		●		●	火曜日・木曜日：予約再来のみ
	産科	●	●	●	●	●	
	婦人科	●	●	●	●	●	
	生殖不妊・内分泌・骨粗鬆症	●	●	●	●	●	
小児科	新患：一般再来	●		●	●	●	新患は要紹介状
	生活習慣病・内分泌	●		●	●		
	遺伝・先天代謝異常			●			
	神経	●			●		
	新生児	●				●	
	血液（移植外来）			●		●	
皮膚科	膠原病	●				●	
	皮膚科		●		●	●	
	皮膚外科		●		●		
	乾癬		●				
	強皮症・皮膚筋炎		●			●	
泌尿器科	泌尿器科	●	●			●	新患は要紹介状、要予約（院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約） ※月曜日：小児泌尿器科 腎移植外来：月曜日は再来のみ
	腎移植外来	●	●			●	
耳鼻咽喉科	新患	●		●	●		新患は要紹介状
	甲状腺・頭頸部腫瘍	●		●	●		
	鼻副鼻腔・アレルギー	●		●	●		
	中耳炎・難聴・めまい・顔面神経	●		●	●		
	人工内耳			●			
	幼児難聴・補聴器	●					
	形成・外傷・味覚			●	●		
	口腔咽頭・唾液腺・音声・嚥下	●		●	●		
頸部エコー外来	●		●	●			

※曜日枠に赤まる●が付いた曜日が外来診療日となります。外来の際にご確認ください。

※診療受付時間は午前8時30分から午前11時まで、診療開始時間は午前9時です。 平成26年1月1日現在

診療科	専門外来	月	火	水	木	金	備考	
眼 科	緑内障	●		●			月曜日は外来者の新患及び再来予約のみ	
	小児眼科			●				
	網膜硝子体		●		●			
	角膜		●	●	●			
	神経・腫瘍・ぶどう膜炎 一般再来	●	●	●	●		月曜日の神経、腫瘍は午後の再来のみ	
精神科神経科	精神科神経科	●	●		●	●	新患は予約制	
放射線科	放射線診断・IVR			●		●	新患は要紹介状	
	CTガイド下・PVP			●			水曜日の診断・IVR外来は午後のみ	
	甲状腺・RI		●	●			甲状腺は水曜日のみ	
	放射線治療		●	●		●	重粒子線治療相談外来は水曜日のみ	
麻酔科	麻酔科	●		●		●		
	ペインクリニック	●		●		●		
歯科口腔外科	新患・一般外来	●	●		●	●	新患・一般外来:月～金曜日(水曜日を除く)	
	口唇・口蓋裂	●						
	顎変形症	●						
	腫瘍		●					
	顎関節症 外傷					●	●	
口腔ケアセンター		●	●		●	●		
リハビリテーション部	リハビリテーション部	●	●	●	●	●	当院リハは入院患者のみ。以外は電話にて要相談 新患は火・水・木曜日(要リハ紹介状) (月・金午前は検査優先)	
高気圧治療部	高気圧治療部	●	●	●	●	●	新患は要紹介状 新患は午前11:00まで、救急は要連絡	
血液浄化療法部	血液浄化療法部	●	●	●	●	●	土曜日は再来のみ	
地域医療部	地域医療部	●	●		●	●	木曜日は第2・4の午前中のみ	
総合診療センター	総合診療科部門	●	●	●	●	●		
	禁煙外来		●	●	●	●	火～金曜日の午前中・予約制	
	ものわずれ診断外来	●			●	●	完全予約制・院外からの紹介患者のみ (医療福祉支援センター・内線1371で要予約)	
がんセンター	漢方外来					●	第3金曜日の午後のみ ※事前予約が望ましい	
	緩和ケア外来(身体的緩和部門) (精神的緩和部門)	●	●	●	●	●	新患は要紹介状(火・木曜日は予約制) 医療福祉支援センター(内線1371で予約)	
救急部	救急部	24時間診療						

本院の理念及び基本方針

● 理 念 ●

病める人の立場に立った、質の高い医療を提供するとともに、国際性豊かな医療人を育成する。

● 基本方針 ●

1. 生命の尊厳を重んじた全人的医療の実践
2. 地域における保健・医療・福祉の向上に対する貢献と関連機関との連携
3. 先端医療技術の開発・応用・評価
4. 国際性豊かな医療人育成

患者さんの権利と義務について

琉球大学医学部附属病院では、患者さんを中心とした「安全・安心・思いやり」に基づくより良い医療を目指しております。患者さんとの深い信頼関係の上に成り立つ医療の大切さを十分に理解するとともに、患者さんには一人一人に次のような権利と義務があることを確認いたします。

●患者さんの権利●

1. あなたは、どんな場合でも、一人の人間として扱われる権利があります。
2. あなたは、どのような境遇、環境であっても、専門家による平等で良質な医療を受ける権利があります。
3. あなたは、病気のことや治療について十分教えてもらう権利があります。
4. あなたは、治療について意見を述べる権利と選択できる権利があります。
5. あなたは、あなた自身の話したこと、病気、身体について知られたくないことを守られる権利があります。

●患者さんの義務●

1. 最善かつ適切な診療を行なうために、あなた自身の健康状態についてできるだけ正確に伝える義務があります。
 2. 主治医や担当医の治療や退院計画に主体的に取組み協力する義務があります。
 3. すべての患者さんが適切な医療を受けられるように、病院の規則に従い、医療の妨げとならないように協力する義務があります。特に攻撃的な態度や暴言、乱暴な行為は謹み、施設の所有物を大切に使うようにして下さい。
- 平成22年8月

本院までの交通機関



- 那覇バス
所要時間:那覇バスターミナルより本院まで約50分
- 97番 琉大線
経路:那覇バスターミナル～牧志～儀保～琉大病院前～長田～中部商業高校前～琉大北口
タクシー・乗用車での所要時間
●那覇市街より約25分 ●沖縄市街より約20分
●那覇空港より約35分 ●モノレール首里駅から10分
※モノレール儀保駅からバス(97番)で30分

附属病院
ホームページが
携帯サイトからも
閲覧できます。

携帯用QRコード



ボランティア募集

本院では、一般の方からの病院ボランティア(外来ロビーでの案内・補助等)を広く募集しております。空いている時間を利用して、一緒に参加してみませんか? まずはお気軽にご連絡下さい。
【連絡先】総務課総務係(内線:2102)

琉球大学医学部附属病院

電話(098)895-3331(代表)

〒903-0215 沖縄県西原町字上原207番地

http://www.hosp.u-ryukyu.ac.jp/

HOT LINE

8

本紙掲載の文章・記事・写真等の無断転載はお断りします